

一庫ダム 梅雨前線に伴う洪水に対し操作を実施

淀川水系猪名川^{いながわ}の一庫ダム（兵庫県川西市一庫）流域では、活発な梅雨前線の影響により、7月5日から8日までの総雨量が550.9mm（一庫ダム流域平均雨量）となり、管理開始以降最大を記録しました。

この降雨により、7月5日21時42分にダム流入量が最大の毎秒630立方メートルとなりましたが、流入量の約76%（毎秒約481立方メートル）を低減させ、同時刻におけるダム放流量は、毎秒149立方メートルとしました。

防災操作の概要

	流域平均総雨量	ダムへの流入量が最大となった時刻	同時刻におけるダムへの流入量	同時刻におけるダム放流量	同時刻におけるダムによる低減量
一庫ダム	550.9mm	7月5日21時42分	630m ³ /s	149m ³ /s	481m ³ /s

今回の記録的な豪雨に対して、操作ルールに基づき、洪水量を減少させ、ダムが満杯に近く中でも、流入量を上回る流量とならないような異常洪水時防災操作を、6日13時5分から開始しました。この操作は管理開始以降初めての操作となります。

この一連の操作で、ダム下流の多田院地点（川西市多田院地先）の最高水位は7.51mとなりました。もし、ダムが無かった場合には、同じ多田院地点の水位は堤防高の8.26mより上昇していたと推定され、これにより洪水は堤防から越水し、浸水被害が発生したものと想定されます。

多田院地点の水位低減効果

多田院地点の河川水位が最高水位となった時刻	同時刻における多田院地点の河川水位	ダムが無かった場合の同地点の最高水位（推定）	水位低減効果（推定）
7月5日22時30分	7.51m	8.26m以上 （多田院地点の堤防高）	0.75m以上

一庫ダムでは、今後もダムの効果が最大限に発現できるよう努めてまいります。

管理開始（昭和58年4月）以降の出水と今回の出水の記録

順位	出水名	流域平均雨量（mm）	最大流入量（m ³ /s）	最大流入時のダム流下量（m ³ /s）	最大流入時のダムによる低減量（m ³ /s）
1	平成30年7月 梅雨前線	550.9	630	149	481
2	平成25年9月 台風18号	293.4	468	148	320
3	平成26年8月 台風11号	282.7	440	20	420

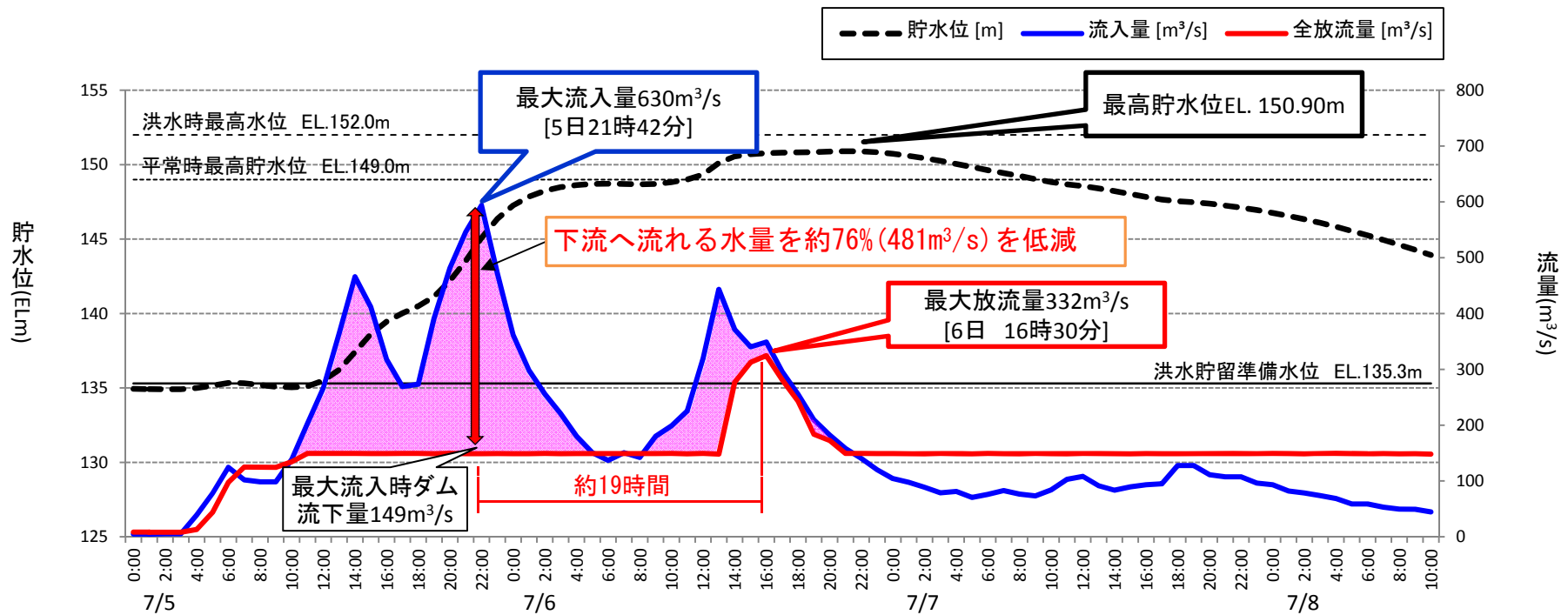
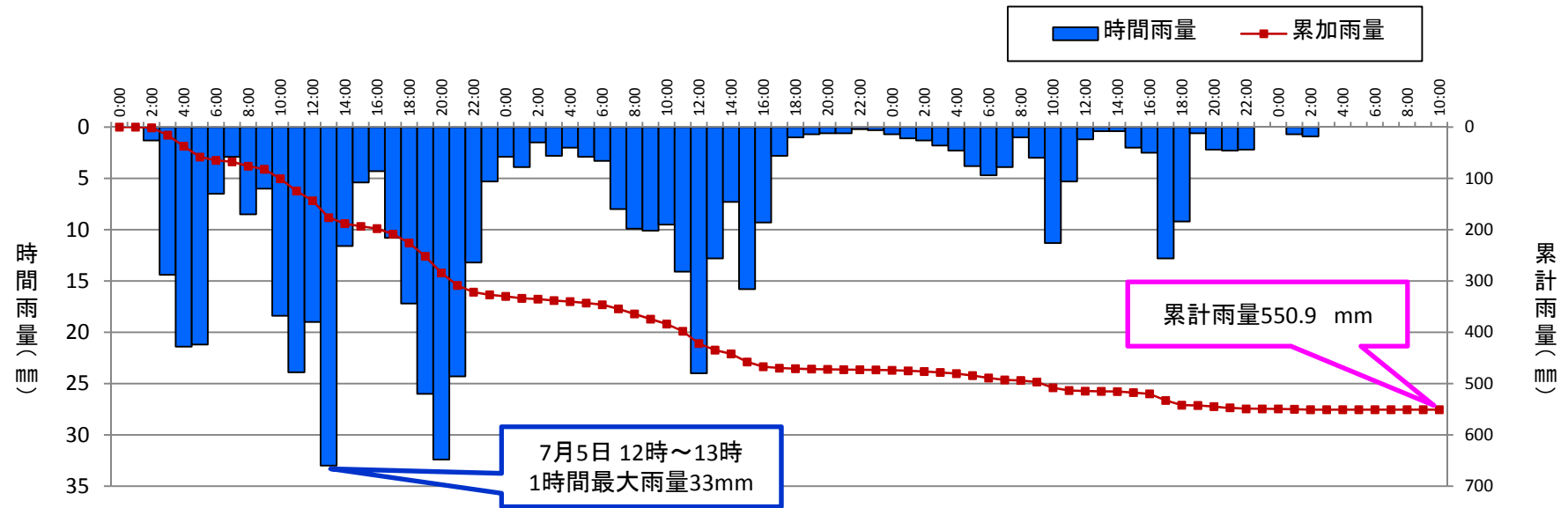
※ 管理開始（昭和58年4月）以降の出水で、最大流入量が大い方から3番目までを記載しています。

一庫ダム位置図



一庫ダム 梅雨前線に伴う洪水に対し操作を実施

資料2



一庫ダム 梅雨前線に伴う洪水に対し操作を実施

■ 淀川水系猪名川の一庫ダム流域では、活発な梅雨前線の停滞により記録的な降雨が発生し、降り始めからの総雨量は550.9mmを観測しました。この降雨により、ダムへの最大流入量は毎秒630立方メートルを記録しましたが、防災操作により、流入量の約76%（毎秒481立方メートル）を低減させ放流することにより、ダム下流の河川水位の低減に努めました。

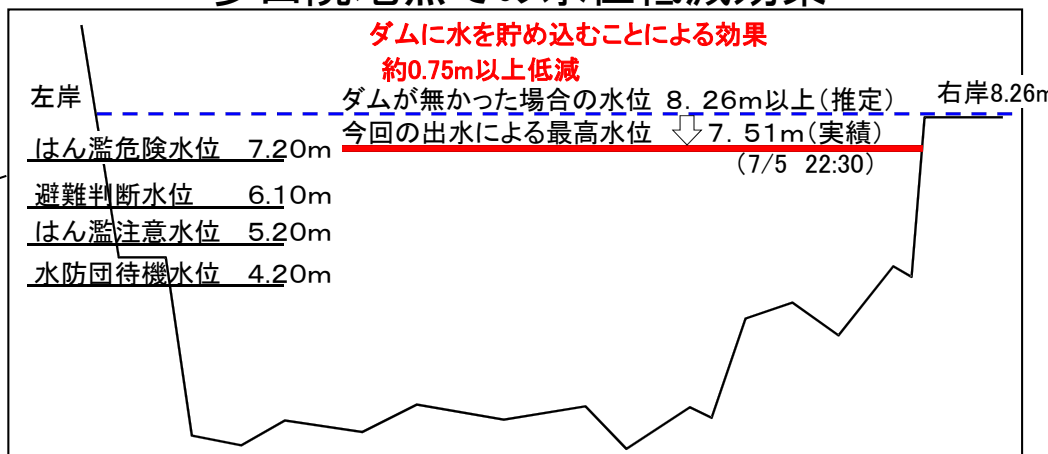
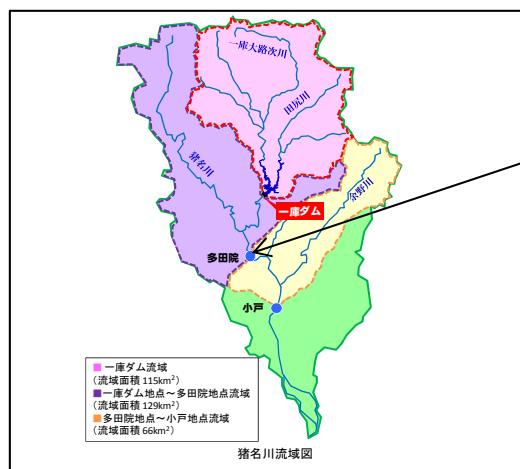
■ もし、ダムが無かった場合には、多田院地点の水位は堤防高の8.26mより上昇していたと推定され、これにより洪水は堤防から越水し、浸水被害が発生したものと想定されます。



洪水貯留開始前の貯水池の状況
(7月2日10時頃 EL.135.84m)

洪水時最高水位に近づく貯水池の状況
(7月6日 17時頃 EL.150.81m(上昇中))

多田院地点での水位低減効果



※ 今回の発表は速報値であり、今後の精査により数値等が変わることがあります。